

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

グランド・ブダペスト・ホテル

2013年・イギリス、ドイツ合作映画
配給／20世紀フォックス・100分

2014 (平成26) 年5月13日鑑賞

GAGA試写室

Data

監督・脚本・発案・製作：ウェス・アンダーソン

出演：レイフ・ファインズ／トニー・レヴォロリ／F・マーレイ・エイブラム／マチュー・アマルリック／ティルダ・スウィントン／エイドリアン・プロディ／ウィレム・デフォー／ジェフ・ゴールドブラム／シアーシャ・ローナン／エドワード・ノートン／ハーヴェイ・カイテル

👁️👁️ みどころ

グランド・ブダペスト・ホテルは壮麗なアルプス山脈を臨むヨーロッパ大陸の東端の国ズプロフカ共和国にあった超豪華なホテル。2008年7月に洞爺湖サミットが開催された「ザ・ウィンザーホテル洞爺リゾート&スパ」も豪華だが、その比ではない！

第2次世界大戦直前、そこには伝説のコンシェルジュがいたが、その「おもてなし」とは？ファシストの手によって地図上から消された国にあったグランド・ブダペスト・ホテルを舞台にした、ウェス・アンダーソン監督による洒落た設定と凝った演出の中で展開されるミステリーをじっくりと楽しみたい。

なるほど、映画ってこんな風を作るもの・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■オープニング上映で銀熊賞をゲット！■□■

2014年の第64回ベルリン国際映画祭で、山田洋次監督の『小さいうち』（14年）に出演した黒木華が銀熊賞・最優秀女優賞を受賞したことは日本で大々的に報道されたが、そのオープニングで上映され、見事銀熊賞・審査員グランプリを受賞した本作のことはあまり報道されていなかった。本作を監督したウェス・アンダーソンは1969年テキサス州生まれのアメリカ人だが、私が観た『ライフ・アクアティック』（04年）（『シネマルーム7』125頁参照）も『ダージリン急行』（07年）（『シネマルーム18』279頁参照）も、同監督特有の風変わりな世界観に満ち溢れていた。

本作のタイトルになっている『グランド・ブダペスト・ホテル』の名を私は全く知らなかったが、これは壮麗なアルプス山脈を臨む、ヨーロッパの東端の国、ズプロフカ共和国

にある最高級ホテルの名前らしい。とは言っても、そもそもズブロフカ共和国って一体ナニ？1939年9月1日にナチス・ドイツがポーランドに侵攻したことによって第2次世界大戦が始まったことはよく知られているが、1930年代にファシストに占領され、占領統治の21日目に消滅してしまったという、独立国家ズブロフカって一体どこにあった国？

本作を監督、脚本のみならず発案、製作したウェス・アンダーソン監督の関心と興味は、過去の作品を観てもどうも普通の人が全く気付かない、そういうところにあるようだ。

■□ホテルの豪華さにビックリ！その「おもてなし」とは？■□

2008年7月に北海道の洞爺湖で開催された第34回主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット）に、福田康夫（議長）、ブッシュ（アメリカ）、ブラウン（イギリス）、サルコジ（フランス）、メルケル（ドイツ）、ベルルスコーニ（イタリア）、スティーヴン・ハーパー（カナダ）、メドヴェージェフ（ロシア）というG8

の首脳が参集したのが、超高級ホテル「ザ・ウィンザーホテル洞爺リゾート&スパ」だ。私は2013年9月に息子の宏展弁護士と共に洞爺湖温泉に泊まった時、山上にある「ザ・ウィンザーホテル」を湖の遊覧船の中から写真撮影した。しかし、「グランド・ブダペスト・ホテル」はそれ以上に高く、ケーブルカー



グランド・ブダペスト・ホテル【初回生産限定】
DVD発売中（11月12日発売）
20世紀フォックス ホーム エンターテイメント ジャパン
©2014 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.

一に乗らなければ辿り着けない山の上にある。

本作では、ポーランドとチェコ共和国との国境に位置する、ユネスコの世界遺産に登録された町にある広大なデパートを「グランド・ブダペスト・ホテル」に改造して撮影したそうだが、本作の見どころの第1は、グランド・ブダペスト・ホテルそのものの魅力だ。ロビーやレストランの豪華さはもちろん、スクリーン上に再三登場するエレベーターの趣は何ともいえないものがある。本作では①第2次世界大戦直前の1930年代、②1960年代、そして③現代、という3つの時代が描かれるが、1930年代にこんな豪華なホテルが存在していたこと自体が大きな驚きだ。もっとも、本作ではホテルの外観だけは、精巧に作った小型模型を使ったそうだが、山頂にあるこの壮大な「グランド・ブダペスト・

ホテル」の豪華さそのものが本作の大きな売りになっている。

他方、ホテルの価値はハード面だけではなく、ソフト面が大切。つまり、2020年の東京オリンピック招致を成功させた、「おもてなし」の心が大切だ。しかし、レイフ・ファインズ扮する本作の主人公ムッシュ・グスタヴ・Hは、最高の「おもてなし」によって「伝説のコンシェルジュ」と呼ばれているらしい。それはグランド・ブダペスト・ホテル最高の上客で、グスタヴの大親友でもあるマダムD（ティルダ・スウィントン）へのサービスぶりを見ればよくわかる。ありていに言うと、究極の「おもてなし」を信条とするグスタヴにとっては、マダムたちへの「夜のお相手」を完璧にこなすことも当然の務めだったらしい。なるほど、なるほど……。それはそれで、立派な心がけかもしれないが……。

■□■スクリーンサイズは3パターン。その技法にも注目！■□■

2012年の第84回アカデミー賞レースでは、3Dが登場している時代に、意外にもモノクロのサイレント映画『アーティスト』（11年）が作品賞、監督賞、主演男優賞、衣装デザイン賞、作曲賞を受賞した（『シネマルーム28』10頁参照）が、そのスクリーンサイズは現在のような横長ではなく、正方形に近いものだった。本作では、1932年に



グランド・ブダペスト・ホテル【初回生産限定】
DVD発売中（11月12日発売）
20世紀フォックス ホーム エンターテイメント ジャパン
©2014 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.

グランド・ブダペスト・ホテルのベルボーイとして働き始めたばかりの若者ゼロ・ムスタファ（トニー・レヴオリ）が、伝説のコンシェルジュとして当時のグランド・ブダペスト・ホテルを仕切っていたグスタヴのお眼鏡にかなう中、共にある事件に巻き込まれていくストーリーが描かれるが、その当時のスクリーンサイズは昔の正方形に近いものになっている。つまり、本作では①1930年代、②1960年代、③現代、という3つの時代毎に3つのスクリーン

サイズに切り替えるという面白い試みをしているわけだが、さて、その成否は？

テレビもブラウン管から液晶に変わる中でサイズも横長になったが、そこではスマートだった女子アナや女優さんが急に太目に見えるという弊害も発生した。しかし、本作ではそんなヘマはやらないはず。したがって、本作では写真撮影、映像撮影の技術について少し専門的に勉強してみるのも面白いはずだ。

■□■洒落た設定と凝った演出の中、ミステリーが！■□■

弁護士は僧侶や神父と同じように人の内面（の秘密）を聞き取るのが仕事だが、それを

ベラベラ外部にしゃべるのはもつての外。職業上、その秘密は自分の身体と一緒に棺桶の中に入れてあの世まで持っていかなければならないが、それはホテルマンも同じだ。そして、グスタヴくらい一流コンシェルジュともなれば、「夜のお相手」をこなす中、多くの有閑マダムたちからさまざまな「秘密」も打ち明けられるはずだ。本作は超豪華な「グラランド・ブダペスト・ホテル」が一つの売りだが、メインは84歳の伯爵夫人マダムDの死亡（殺人事件？）をめぐるミステリー。それを面白く描く本作では、さらに東西ヨーロッパを列車で移動するロードムービーの面白さもある。

そんなグスタヴとゼロ・ムスタファのコンビによる最初の旅はマダムDの葬式のために出かける旅だったが、後半は逃亡の旅になる。それは、なぜかグスタヴがマダムD殺しの犯人として逮捕され、刑務所に入れられてしまったためだ。その逃亡の旅を支援するのが、コンシェルジュの秘密結社クロスト・キーズ協会（鍵の秘密結社）。私はその名前をはじめて聞いたが、そんな秘密結社ってホントにあるの？

マダムDの代理人で弁護士のコヴァックス（ジェフ・ゴールドブラム）が読み上げたマダムDの遺言書には、相続に何の関係もないグスタヴに対して「少年と林檎」という超高価な絵画を譲ると書かれていたから、マダムDの息子ドミトリー（エイドリアン・プロディ）が激怒したのは当然。遺産相続を巡る争いを弁護士の私はたくさん見てきたが、ドミトリーから殴られた腹いせにグスタヴが黙って「少年と林檎」の絵を持ち去ってしまうというのはいかがなもの・・・？グスタヴが逮捕され、収監されてしまったことについては、ドミトリーやマダムDの執事セルジュ・X（マチュー・アマリック）らの画策があったはずだが、刑務所内の囚人仲間を仕切るルートヴィヒ（ハーヴェイ・カイトル）らと共に一世一代の脱獄劇を成功させた以上、グスタヴが再度捕まるわけにいかないのは当然。本作中盤では、ウェス・アンダーソン監督が仕掛ける、洒落た設定と凝った演出の中でのそんなミステリーをじっくりと味わいたい。

■□■恋模様の展開は？戦争の雰囲気は？■□■

本作は3つの時代にわたるから、多くの有名な俳優が出演している。ジュード・ロウもその一人だ。しかし、彼は年老いたグラランド・ブダペスト・ホテルのオーナー、ゼロ・ムスタファ（F・マーレイ・エイブラハム）から波乱に満ちた物語を聞き出すだけの役割で、本作の冒頭とラストに登場するだけだ。

他方、ミステリー色豊かなメインストーリーの中では、恋模様も少し描かれる。それは、若きベルボーイでグスタヴの教えを受けながら少しずつ成長していく若者ゼロ・ムスタファと、ズブプロカ1番の有名ベーカリー“メンドル”の若きパティシエであるアガサ（シアージャ・ローナン）との恋だ。アガサの右の頬には大きな痣があるから、普通はこれが劣等感になって悩むものだが、アガサはそうではないらしい。グスタヴとゼロ・ムスタファが逃亡生活を続けている中、軍靴の足音が次第に大きくなり、グラランド・ブダペスト・

ホテルも軍の司令部にされてしまうが、アガサはその一室に「少年と林檎」をしっかりと保管。さあ、ドミトリーや警察からの追及が強まる中、アガサは愛するゼロ・ムスタファのためにいかなる行動を・・・？

グスタヴがゼロ・ムスタファとともにマダムDの葬儀に出席するため列車に乗った本作冒頭の旅は、軍からの検問(?)に対して「グスタヴの顔」でパスすることができたが、戦火が開かれると、そうはいかなくなったのは当然。グスタヴは誇り高きコンシェルジュとして、貧しい移民の子ながらベルボーイとしての資質を見込んだゼロ・ムスタファを軍の手から守ろうとしたが、さてその成否は？そんな第2次世界大戦直前の時代の空気も、本作ではしっかり味わいたい。

■□■ズプロフカ共和国の国民的大作家に拍手！■□■

つい先日4月18日の新聞各紙では、コロンビアの大作家ガルシア・マルケスの死亡が報じられた。ガルシアは、私の事務所内で対談したこともある、中国のノーベル文学賞作家・莫言が愛した作家だ。日本では村上春樹がノーベル文学賞の有力候補とされながら何度も受賞を逃している。莫言が受賞した時も下馬評では村上春樹の方が高かったが、結果は莫言の勝ちだった。しかし、村上春樹は日本の国民的作家？私の価値観ではそうではなく、「国民的作家」という形容詞がもっとも相応しい日本人作家はやはり司馬遼太郎だろう。しかし、ズプロフカ共和国における国民的作家は誰？それが、本作と同名の原作を書いた作家・トム・ウィルキンソンだ。

本作冒頭、「これは私が聞いた話だ。まさに、思いも寄らない展開だった——」と語り始めるのが、ズプロフカ共和国が誇る大作家トム・ウィルキンソン。ズプロフカ共和国が地図上から消されてしまった今は、トム・ウィルキンソンが遺した傑作小説『グランド・ブダペスト・ホテル』を読むことが唯一この国を知る手立てらしい。「寅は死して皮を留め、人は死して名を残す」というが、まさにズプロフカ共和国が死んでも、作家トム・ウィルキンソンは『グランド・ブダペスト・ホテル』という小説で名を残したわけだ。

いかにも目のつけ所がシャープな、ウェス・アンダーソン監督の着眼点に拍手を送るとともに、そんなズプロフカ共和国の大作家トム・ウィルキンソンに拍手！



グランド・ブダペスト・ホテル【初回生産限定】
DVD発売中 (11月12日発売)
20世紀フォックス ホーム エンターテイメント ジャパン
©2014 Twentieth Century Fox Home Entertainment, LLC. All Rights Reserved.

2014 (平成26) 年5月15日記